

「お金に愛されないエンジニア」のための新行動論（7）：

老後を生き残る戦略として「教祖（仮）」になってみた

<https://eetimes.itmedia.co.jp/ee/articles/2209/30/news064.html> [PDF出力]

前回に続き、老後の生き残り戦略の一つとしての信仰を考えてみます。今回、私は「教祖（仮）」となり、「教祖ビジネス」についてさまざまな角度から検討してみました。

2022年09月30日 11時30分 更新

[江端智一, EE Times Japan]



今回のテーマは、すばり「お金」です。定年が射程に入ってきた私が、あらためて気づいたのは、「お金がない」という現実でした。2019年には「老後2000万円問題」が物議をかもし、基礎年金問題への根本的な解決も見いだせない中、もはや最後に頼れるのは「自分」しかいません。正直、“英語に愛され”なくても生きていくことはできますが、“お金に愛されない”ことは命に関わります。本シリーズでは、“英語に愛されないエンジニア”が、本気でお金と向き合い、“お金に愛されるエンジニア”を目指します。⇒[連載バックナンバー](#)

宗教団体の設立も「起業」だ

前回のコラム『[老後を生き残る「戦略としての信仰」は存在するのか](#)』では、お金に愛されないエンジニアの老後戦略としての、宗教教団への入信について検討しました。

しかし、検討の結果、私が入信したくなるような教団は、現時点では存在しないことが分かりましたし、そもそも、私、『他人の教えに従う』というのが苦手です。で、前回のコラムの最後で、

江端：「なるほど。とりあえず、私は、カルト教団をたたきつぶすために、別のカルト教団を立ち上げればいいんですね。それでは、これから、その方向で検討を始めます」

というようなことを言いました。

それから、ここ1カ月、宗教団体の設立を、真面目に考えていました。仮に、私が、定年退職後に、再就職しようとして、全ての会社から断われた時は、起業するか自営するかしかありません——が、私には、自宅のパソコンに向かって、外注仕様書を読みながら、老眼鏡をかけなおしつつ、ひたすらコーディングしている自分の姿くらいしか、思い浮かべることができません。

とすれば、残る選択肢は「起業」ですが、『私に何ができるかなあ？』と考え込んでしまいました。そんな時、ふと『宗教団体の設立も、“**起業**”だよなあ』と気がついたのです。

宗教の目的は、「人を幸せにすること」ですから、私の退職後に、私が私と嫁さんの食い扶持を稼ぐことは、「私が、私を幸せにすること」といっても良いでしょう。

起業した会社の失敗率は5年以内で約9割といわれています（最近のデータでは14%程度という話もあり、よく分かりません）。ところが、日本には、**宗教法人が18万以上あり**（法人格を含まないものも含めれば、もっとあるかもしれませんが、この数は分かりませんでした）、宗教法人が失敗した、という話は、あまり聞いたことがありません*）。

*）宗教法人法によって、強制的な、解散命令（第81条）が出されたのは、私が知る限り、あの「オウム真理教」だけです。単純に、債務不履行（借金が返せない）で、破産した宗教団体もあるようですが、今の日本の会社の倒産数（月間500件）ほどは多くないでしょう。

そこで、今回のコラムでは、前回のコラムの最後で宣言した「**新しい宗教団体を立ち上げて、自ら教祖になる方法**」について検討してみたいと思います。



□

こんにちは。江端智一です。今回は、前回の「戦略としての信仰」から、今回は、「お金に愛されないエンジニア」の、老後を生き残る「戦略としての教祖」を考えてみたいと思います。

教祖といえば、人格者、カリスマ、君子、聖人、高德、聖人君子……というイメージがありますが、最近は、そういう思い込みにしぼられる必要はなさそうだ、と、気がついてきました。私（江端）より下品で、無知性と断言できる人物が、がっちり教祖をやっているからです（例えば、[守護霊にインタビューする教祖の話](#)、[「低能テロリスト」である教祖の話](#)）。

なんでこんな奴が教祖やっているんだ？と疑問に思っていた時に、一つの考えに至りました。宗教団体というのは、教祖の資質だけが問われるのではなく、**教祖と信者との共依存関係が前提**

となっているのかもしれない、ということです。

以前、量子コンピュータのところでも書きましたが、

まっとうな宗教団体は、量子の話を持ち出したりしませんが、頭の悪い——特に**頭のイカれた教祖と、それを信奉する無知性な信者からなるカルトな宗教団体**に、この傾向が顕著に見られます（関連記事：[「量子もつれ～アインシュタインも「不気味」と言い放った怪現象」](#)）。

もし、この仮説が真だとすれば、私が教祖になるためには、きちんとした「信者市場」のマーケティングと、緻密（ちみつ）なビジネス戦略を考えなければならない——そして何より、私は、「**教祖や信者をバカにするような言動や考え方を、ここできっぱりと捨てなければならない**」と思いました。

謙虚に、冷静に、そして、真剣に、宗教というビジネス——宗教団体の手続き、教義の作成、教団の運営、そして、信者の獲得方法——を、考える必要があるのです。

「教祖になること」は、インスタントラーメンを作るよりも簡単

我が国は宗教の自由を保証しています（憲法20条）。誰が、どのような宗教を立ち上げようとも、全く構いませんし、今日から、教団の教祖を名乗ってもいいです。信徒を集めて集会をしても、誰からも文句を言われることはありません——日本国の法律に抵触せず、かつ、公序良俗に反しない限り。

具体例で言えば——例えば「反ワクチン教団」の設立は100%合法です。その主張をするために、ワクチン接種会場の前で抗議の声を上げるのも、（業務妨害と認められない限りは）問題になりません。しかし、ワクチン接種会場で暴れて、ワクチン接種の業務妨害するのは100%違法で、現行犯逮捕の対象となります。

つまり、**宗教団体の教祖になることは、インスタントラーメンを作るよりも簡単**であるということです。信徒は、「エア信徒」（自分の頭の中にいる信徒）でO.K.です（宗教法人法第1条）。

ところが、「**宗教団体**」を「**宗教法人**」にするのは、**簡単ではありません**。宗教法人とは、国家から人格的な権利を与えられたものです。法人になれば、宗教団体の名前で裁判を起こすこともできるし、私有財産を持ったり、利益が出ても納税の義務を免除されたり、各種の特権を得ることができます。

宗教法人の作り方 —— 手続編

宗教法人法の概要 (江端が“引っかけた”ところだけ)

	解釈
第1条	この法律に縛られることなく、宗教の自由(憲法第20条)は保証される(第2項)
第2条	「宗教団体」とは、(1)教義を広め、(2)儀式を行い、(3)信徒を教化する、団体のこと
第3条	「宗教団体」は、建物と土地があること
第4条	宗教団体は「法人」になれる
第5条	「法人」は「公益事業」をやってもいい —— が、やらなくてもいい
第10条	「法人」になったら、「責任」と「義務」が発生する
第11条	「法人」の代表は、損害賠償の責任を追う
第32条	2以上の宗教「法人」は、合併できる
第43条	「法人」は、自由に解散できる
第51条	解散する場合、裁判所はそれを監督する

宗教活動するだけなら、国家の承認は不要 (第1条)

法人格を得るということは、国家に対して、出生届けを出して、戸籍登録をするようなものです。一度、宗教法人として登録されたら、その後は「人」として取り扱われるのですから、その内容は簡単に変更できません。そして「人」としての権利と義務が発生します。

ちょっと横道に逸れるのですが、最近、「統一教会(世界基督教統一心霊教会)」から「世界平和統一家庭連合」への名称変更手続きが承認された理由について取り沙汰されておりますが、これは当然のことなのです。

「人」が戸籍登録した名前を変えるには、「家庭裁判所」において、正当な事由があると判断をされた場合に限られています。犯罪者が身分を隠匿することを目的とした改名が、「正当な事由」にならないことは当たり前です。

以下は、ある方が情報公開請求を行い、その教団が提出し、行政が認可した書類の写しです(Twitterからコピペさせて頂きました)。

付録 教団の名称変更の手続き

旧統一教会の名称変更が、拒否/受理された理由

- (1) 名称変更は、教義などの変更が生じた場合に認められる
- (2) (逆に) 変更理由がある場合は、行政はそれを(確認プロセスなしで)認めて、(無条件で)名称変更を認めなければならない

○法人について

法人名：宗教法人「世界基督教統一神霊協会」(キリスト教系・単立)

主たる事務所所在地：東京都渋谷区松濤1-1-2

代表役員：徳野 英治

設立認証：昭和39年7月15日

○規則変更理由

○主な変更内容

宗教法人の名称の変更。

黒塗りの部分について、私も知りたい

情報公開法5条第2項(イ)の「公にすることにより、当該法人等又は当該個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの」にあたりと判断している

宗教法人の名称の変更手続きは、裁判所の判断を必要とせず、上図の(1)(2)のような手続きで実施できるようです。が、その変更理由については、黒塗りにされていて公開されていません。

しかし、このケースは、明らかに「公益上特に必要があると認められる」(情報公開法第7条)に該当すると思いますので、この原稿を書き上げたら、私も、情報公開請求の手続きを取ってみたいと思います*)。

*) 私も、これまで2回ほどやっていますが、結構簡単で、手数料も安価(300円)です。結果は、私のブログにてご報告します。

閑話休題。

前述した通り、あらゆる宗教団体は、法人登録などしなくても、宗教活動を自由に行うことができます(宗教法人法第1条)が、多くの宗教団体は、法人登録を試みます。

法人登録をするということは、宗教団体が国家の管理下に置かれるというデメリットにもなりますが、それと同程度、あるいはそれ以上のメリットがあるからです。

宗教法人登録のメリットとデメリット

「坊主丸儲け」というフレーズにつながるのか？

	内容	江端所感
メリット	ブランド(信用力) 価値の向上	これが圧倒的理由
	契約のしやすさ	信用するなら「人」より「組織」
	税制上の優遇	宗教活動、公益事業、固定資産等、 非課税
	法律上の優遇	教会等の土地建物の 差し押さえ禁止
デメリット	布教活動の継続実施	「心の中で」では駄目。集会や布教活動の「 見える化 」が必須
	行政への報告義務	活動内容、人事、収支まで「 何もかも 」のレベル

「国家の監視下」に置かれる代わりに、
「税金などの優遇」が認められている

一言で言うと、「税金と法律で圧倒的に優遇してやるから、おまえ（の教団）が何をやっているのか全部見せろ」という、トレードオフの関係です。

法人登録しなければ、一般法が適用されます。教団への財産譲渡や献金には、当然、贈与税が適用されます（乱暴な理解ですが、『贈与したお金の半分を国に取られる』、というイメージです）し、法人登録をしていない寺院には、お正月のお賽銭ですら、税収の対象になるはずで

教団への献金は、どうなっている？

「自分の財産を教団に全部差し出す」が非課税になる

	内容
相続税	江端の超乱暴な相続税の理解 「(遺産総額-4000万円 ^(*)) x 0.5 の金額が課税される(国に徴収される)」 <small>(*)相続税の基礎控除額は、「3,000万円+ (法定相続人の数×600万円)」</small>
教団への献金	「宗教法人」なら課税されない ^(*) <small>(*1)「宗教法人」でなければ、普通に課税される (*2)但し、相続税逃れのために遺贈を行うと宗教法人も相続税の対象になる</small>

宗教法人は、“美味しい”

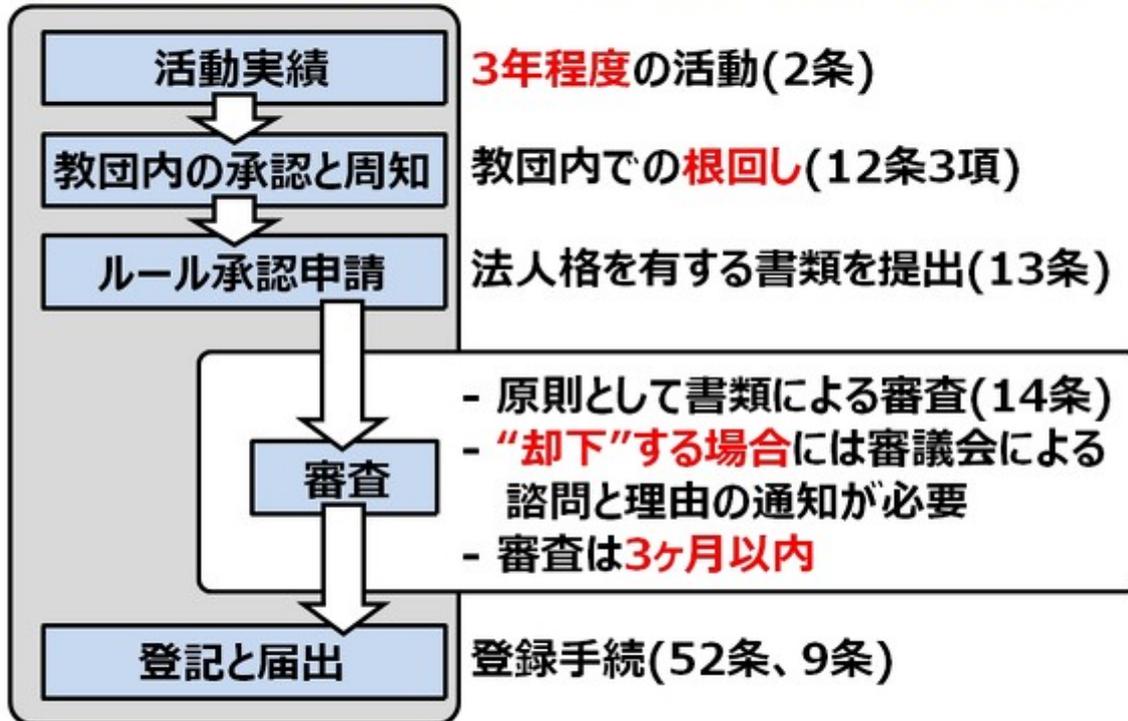
私が、一介のサラリーマンではなくて、ベンチャーを立ち上げて成功したお金持ちになっているのなら、宗教法人を立ち上げて、自ら教祖となって、嫁さんと長女と次女に、教祖を引きつがせることを考えると思います——まあ、もし私がお金持ちなら、この連載自体（「[お金に愛されないエンジニアのための新行動論](#)」）が存在しなかったはずですし、彼女らは『面倒くさい』とって、教祖となることを拒否すると思いますが。

まあ、この程度の脱法行為は、当然、管轄省庁は、当然に想定していますし、実際に、相続逃れの遺贈は、過去にいくつも摘発されています。

そもそも、宗教団体の法人登録は、かなり面倒なのです。登録前に、宗教団体としての活動実績が必要とされるからです。

宗教法人登録までのフローチャート

「思い立ったら、宗教法人登録」という訳にはいかない



基本は「書類審査」であるが、
「実体審査」も行われる

まずは登録申請から遡って**3年間程度***の**活動実績**を報告しなければなりません。その宗教団体が、実体を伴って、宗教活動を行っているという事実が必要で、まず、礼拝の施設を備える神社、寺院、教会、修道院などの不動産が「現存している」ことを示す必要があります。

*) ちなみに、イエス・キリストの布教活動も実質3年間程度だったそうです（ローマ帝国の処刑によって強制打ち切り）。

さらに、申請書類に記載できる程度に明文化された**教義**があることが必要です。『みんなで幸せになる』程度の内容では全く足りません。

また、日頃から儀式行事が行われているという証拠も必要です。寺院のWebサイトを見ていたのですが、月に一度は大きなイベントがあり、月単位の定例イベントがある、という程度のアクティビティーは必要そうです。

信者の**教化育成**の実体も必要です。ただ、その教化の内容には、（原則として）国家は踏み込めませんが、暴力を伴う活動（テロリズム）や、信徒から寄進を義務化するような教化は、公序良俗の観点から弾かれると思います（当然ですが）。そして、門徒名簿や財産目録が存在していることも必要です。役員については名簿や目録の開示が必要ですが、信徒は不要です。

詳しくは、「[宗教法人運営のガイドブック - 文化庁](#)」を御参照ください

特に、この2ページ目の、「1.宗教法人の基本理念」の(4)の「性善説」について、今一度、考えたいと思います。



(4) 性善説

宗教は国民の道徳基盤を支えるものです。したがって、宗教法人には非違行為はないという考え方から、財産の処分等について、所轄庁の許可等は必要ありません。



- 2 -

まずは市場調査をやってみた

さて、老後を生き残る「戦略としての教祖」を考える上において、まずは、現状の信徒の市場調査を行いました。教祖となって、宗教団体を立ち上げ、宗教法人となるためには信徒が必要であり、どの層を狙うかが重要だからです。

我が国における、宗教ビジネスの市場分析

どの層を狙う？

管轄	宗教	規模
文部 科学 大臣 所轄	神道系	8268万人(8.5万) 
	仏教系	4718万人(8.1万) 
	キリスト教系	93万人(0.6万) 
	その他(諸教)	426万人(3.3万) 
	合計	1億3505万人 (* 日本の人口は1億2580万人)
都道府県 知事所轄	神道系	25万人(16)
	仏教系	45万人(103)
	キリスト教系	0.3万人(60)
	その他(諸教)	0.2万人(7)

このデータ、本当に正しいのか？

出所：文化庁「宗教統計調査」

さて、このデータですが、それぞれの宗教団体からの自己申告数を積み上げたものになっており、文化庁が『**その数の根拠については、ウチ（文化庁）は知らん**』と公言しているものです。そもそも、合計したら、日本の総人口を越えていました。

違和感しかないデータです。私は、神式、または仏式の結婚式に参加したことがありませんし、キリスト教形式の葬式に参列したこともありません。『どう考えても、これ、初詣の人数を積み上げただけだろう』というものです。

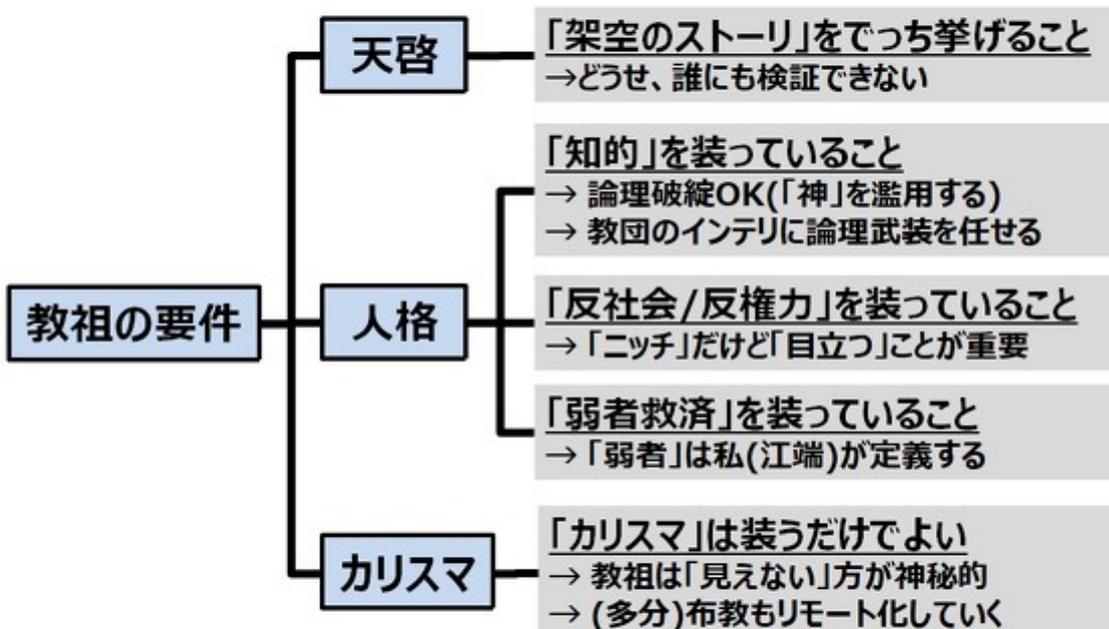
ならば、キリスト教系の団体は、小中学校のクリスマスイベントや、大学のクリスマスコンパの参加者数もカウントしても良いと思います。『**クリスマスには、まず教会に出向け。ミサに参加しないでデートしたら、そのカップルは別れることになるだろう**』という風評の流布も行うべきでしょう。

いずれにしても、このデータは、日本での布教活動の把握には、あまり有効ではないようです。

ともあれ、私が教祖にならなければお話になりません。教祖になる方法については、「[完全教祖マニュアル](#)」を使って勉強させて頂きました。

「江端、“教祖”始めるってさ」

参考文献:「完全教祖マニュアル」



私に教祖の人格はない —— が、かつて、
まともな人格を有した教祖がいたか？

私が教祖になるには、まず、私が「**天啓**」を受けている、というストーリーが必要です。天啓とは『神からのお告げ』のことですが、それが客観的事実であるかどうかは、どうでもいいことです。そもそも、第三者に検証する手段がないからです。

そもそも、世界三大宗教の教祖が天啓を受けた状況を調べてみると、教祖は、絶食したり、不眠を続けたりと、体と精神に過負荷を与えていたのです。人間の脳が、このような状況下では、簡単に精神に混濁をきたし、幻覚症状に陥ります。

実際、私も「天啓」と呼べるようなものを体験したことはあります（2000年9月11日 米国アーチーズ国立公園の[デリケートアーチ](#)）。天啓の内容は口クなものではなかったですが（[筆者のブログ](#)）。

また教祖には、「**知的**」「**反体制**」「**弱者救済**」という行動実績が必要です。しかし、信念を持って行動をしている必要はありません。これらは「フリ」で良いのです。

特に「**知的**」に関しては、自分の主張が論理破綻しても構いません —— というか、逆に、論理破綻をしている方が都合が良いです。その破綻した論理をつなぎ合わせるパーツとして、「神」を出現させる余地が発生するからです。宗教における万能パーツこそ、「**その矛盾によるあなたの苦しみこそが、神が与えている試練なのです**」という詭弁……もとい、教えにつながります。

一方、「神抜き」で試みたのが、いわゆる「共産主義」という宗教です。1991年ごろに大規模な失敗（ソビエト連邦の崩壊）を経験していますが、最近、大陸の方で、一党独裁の根拠とし

てのみ利用して、うまくこと運用して経済成長を続けている国家（中華人民共和国）もあります。

「反体制」という実績を、「成果」という形で見せるのは難しいと思いますが、「弾圧」という形で見せるなら簡単です。デモに参加している写真があれば足りるでしょう。国家権力（警察、機動隊）によって、暴行を受けている（ように見える）写真があれば、バッチリです。

「弱者救済」は、ネタに欠きません。（これについては後ほど、信者獲得のマーケティング分析のところで一覧を表示します）。何しろ、「“犯罪者”を最優先の救済対象*）」を教義とする宗教が、800年後の今にあって、我が国の代表的な宗教法人として存在しているくらいです。今ならツイッターのタイムラインを3分間眺めているだけで、「自称“弱者”」を発見することができます。

*）「善人なおもて往生を遂ぐ、況んや悪人をや（歎異抄）」

「カリスマは作れる」

私にとって巨大な課題が「カリスマ」です。私、顧客への商品紹介や、学会発表などは、そこそこうまくできると思うのですが、カリスマは、プレゼンテーションではありません。「その人への“心酔”」です。心酔というのは、その人の行動、身ぶり手ぶり、口調、体格、イケメン、表現方法などを含む、人間的魅力であり、『ロジックによって説得する能力』のことではありません。

しかし、最近、ちょっと考え方が変わってきています。

まず、カルト教団の教祖の写真を並べて見てみると——清潔感、イケメン度、スマートな体格（体重）と真逆な写真が多いです。正直に言って、“心酔”どころか、近寄ることすら躊躇（ちゅうちょ）するほどの嫌悪感があります。もちろん、個人差はあるでしょうし、実際に会って見ないと分からないこともあるとは思いますが。

最近、私は、「カリスマ」は、後天的に作り出すことができるのではないかと考え方を変わってきています。それは、コロナ禍で主流となりつつあるリモート環境のコミュニケーションや、VTuberなどの仮想外観／音声作成機能などの活用などもスコープに入っています。

教義を作ってみよう

次に、私が作成しなければならない、教義の要件について説明します。三大宗教の代表的な宗教の経典やら、カルト宗教の教義書にざっと目を通して見たのですが、ざっくりこんな感じになっているようです。

教義の要件の検討

3大宗教 + カルト宗教の教義をいくつか読んだ

教義の要件

- (1) 既存宗教をパクっている
- (2) 大衆に迎合している
- (3) 敵が明確である
- (4) 教義をシンプルに説明できる
- (5) 死後が「見える化」されている
- (6) 「奇跡」が準備されている
- (7) 教義に反した場合の「罰」が具体的である

宗教の教義は、大体こんなもの

最も重要なことは、「(1) 既存宗教をパクっている」です。正直、ここ2000年間くらいで、宗教のネタは使い尽くされています。そして、新しいネタを作るのは骨が折れます。前述した「悪人を救え」だの「敵を愛せ」だの「1フレーズを唱えるだけで極楽行き確定」などという、**仰天ネタ**を越えるのは無理です—— 目指すは、N次創作型の教義で良いのです（コミケから始める布教、も、いいかも）。

「(2) 大衆に迎合している」のは、信徒獲得の観点から当然です。信徒の数は、教団の信用力の源泉だからです。

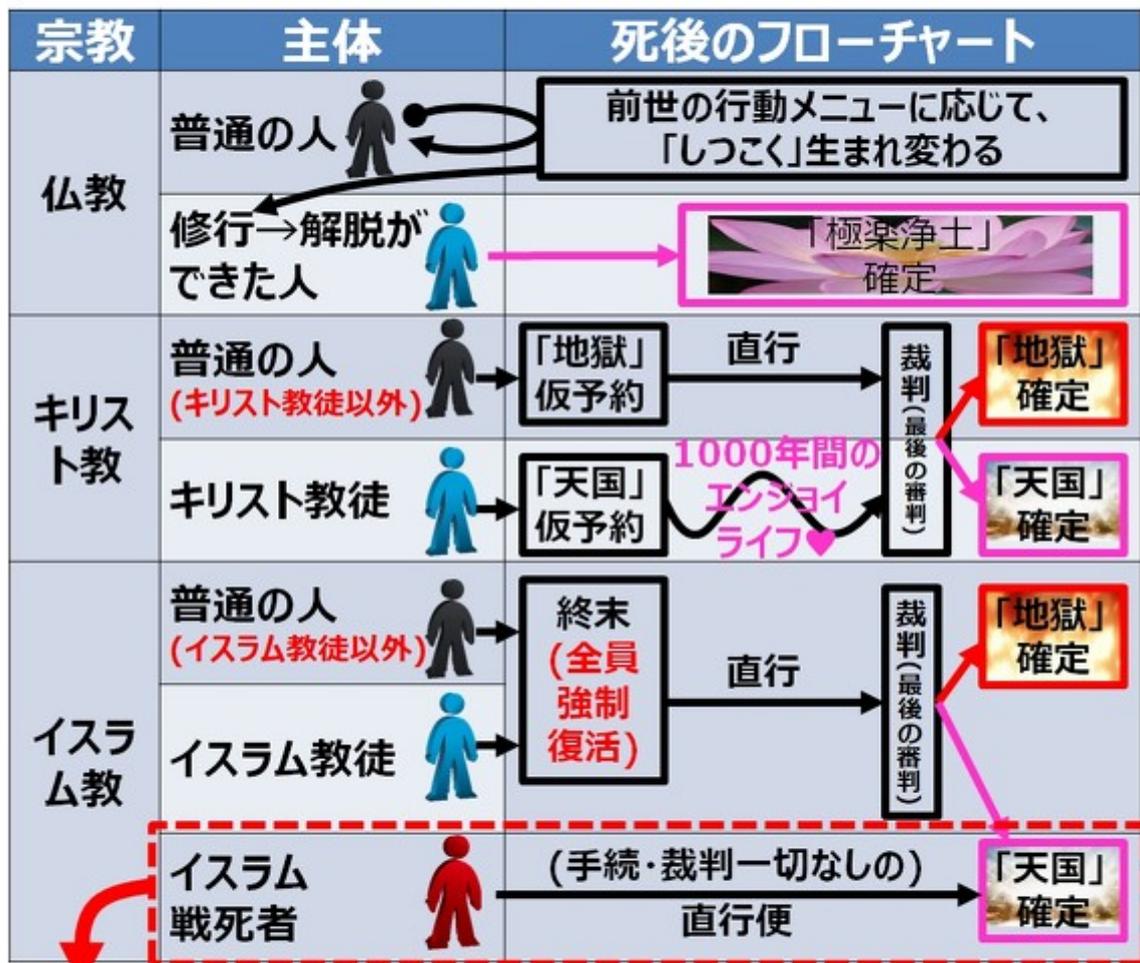
また、「(3) 敵が明確である」というのは、意外に重要です。宗教団体は、その目的が達成されることで、その意義を失っていきます。「恒久的で平和で平等な社会」が実現されれば、全ての宗教は、その瞬間に全滅です。宗教が存在するためには、そのような社会の実現に「尽力」しつつも、「完成」させてはならないのです。そういえば、最近では、旧統一教会、現世界平和統一家庭連合が、会見で「共産主義」が敵である（反共）と主張していましたが、このような「敵」の存在は、自己の存在意義を明らかにする上で、とても有用なメソッドなのです。

「(4) 教義をシンプルに説明できる」ことも重要です。長い説明では、民衆の多くに覚えてもらうことができないからです。前述の「反共」の他には、（宗教ではないですが）「反米（反米帝国主義）」「反日（反日本帝国主義）」、最近なら「反ワク（反ワクチン）」などの略語は、教義をシンプルに説明できていると言えます。

「(5) 死後が『見える化』されている」の重要性については、これまで散々お話してきたので、割愛しますが、これは信徒獲得の手段であると同時に、改宗防止の観点からも重要だからです。信徒は重要な金ヅル人財、いや、人材ですから。

既出:宗教の価値は「死後」に発動する

宗教の「死後」の脅迫フローチャート



イスラム原理主義者の自爆テロは、超低コストの「天国直行便」

次は、なかなか難しいのですが、「(6) 奇跡が準備されている」ということも重要なのです。奇跡というのは、自然法則を無視した現象のことです。これは、3大宗教ではしばしば登場します。「海を割って歩いて渡った」「水をワインに変えた」「失明している人に視力を取り戻させた」などなどです。また、その後、この奇跡を再現できた人は一人もいない、という点も重要です。

ところが、新しい宗教であっても、このような奇跡は必要です。大抵の場合は「演出」で作ります。例えば、「病気から快癒する祈祷による奇跡」を作るのは、とっても簡単です。なぜなら、病気になった人は、(1) 死ぬ、(2) 病気のまま、(3) 病気から治癒する、の3つの状態にしかありません。100人くらいに、祈祷をしておけば、一人くらいは(3)の状態になる人もいるでしょう。あとは、それを「奇跡が起きた!」とやかましく騒ぎ立てれば完了です(これ、投資詐欺でよく使われる手法らしいです)。

そういえば、1995年に地下鉄サリン事件を起こしたオウム真理教の教祖が、「空中浮遊」という写真を公開して、奇跡を吹聴していましたが、その後の動画で、「座禅状態からの、ジャンピ

ングを実現した」だけのアスリートであったことが分かりました（その後、多くの人が、自分で行った再現画像を投稿していました）。

ともあれ、これから宗教団体を作る私にとって、奇跡の準備は、頭の痛い課題ではありますが、エンジニアである私なら、「奇跡の演出」くらいはできるはずだ、と信じています。

「**(7) 教義に反した場合の「罰」が具体的である**」というのは、現世における「不利益の具体例」があることが望ましいです。『**脱退した人が、その後、無惨な死に方をした**』とか『**身内に不幸が立て続けに起こった**』とかいう話が効果的でしょう。それが真実かどうかはどうでも良いのです。教団に入っている人は、外部からの情報が入ってこない状態にあり、教団内にしかコミュニティを持っておらず、既に正常な精神状態にはありません。いずれにしても、このような「罰」のストーリーは、きちんとマニュアル化して、いつでも使えるようにしておく必要があります。

教団を運営してみよう

教義ができた後は、教団を運営しなければなりません。宗教法人を得るためには、実体的な活動が必要です。どんな組織であれ、表に出せる運用（表向きの要件）と、隠蔽しなければならない運用（裏向きの要件）がありますが、——特に、それが「愛」だの「平和」だのという無体物の実現をKPI（重要業績評価指標）としなければならない宗教団体では、それは露骨なものになります。

教団運営の要件の検討

「表向き」と「裏向き」の両方から検討してみた



「裏向きの要件」の(E)がとても重要であると
—— 今回の事件で知った

「表向きの条件」では、法人格を得るためにも、(3) 定期的なイベントの実施、(4) 集会場は必要でしょう。また、信仰の対象としての(5) オブジェ(偶像)も必要です—— オブジェを安く上げようとするなら、「私の写真」でしょうか。他人に自分の写真を持たれると思うと『気持ち悪い』です。—— アイドルやっている人の胆力ってすごいです。

あとは、(1) お金持ちは、教団運営に不可欠なパトロンです。また、運営をしやすくするのに、(2) 同族経営は良い手段になります。不都合な教団内部の情報隠蔽にも一役買いそうです。

後は、(6) 試練と(7) 儀式も必要です。教団を維持するためには、ピラミッド型の階層構造が必要で、試練を経ることで、階層を上がっていく(出世していく)仕組みを作ることで、教団内での競争原理を作り、命令指揮システムの刷新も可能です。そして儀式によって、それを権威付けることも必要です。

と、ここまでが、「表向き」で、ここからが「裏向き」の運営の話になります。

「(A) 他教団をこきおろす」「(B) 異端を肅清する」のは、教祖の大切な仕事です。自分の教団の差別化ポイントを明確にするためでもあります。他の教団から憎まれることで、教団内部の団結を図れるという効果が得られ、かつ、教団の運営をしやすくするためです。

それに、教祖になる以上、苦言などをしてくる人間を追い出して、日々気持ちよく独裁運営をしてきたいと思うのは、当然です。

「(C) 世間に迫害される」というのは、言い直すのであれば「世間に迫害されるような教義」でなければ、生き残れない、ということです。世間の価値観と一致しているような宗教団体を設立することに価値はありません。

「世間に迫害されるような教義」というものの過激な一例としては、例えば、—— **血縁婚（兄弟婚、姉弟婚、兄妹婚、姉妹婚、親子婚）の合法化**、くらい、ぶっとんでいる必要があると思います（筆者のブログ：[「高齢者を組織のトップから、ナチュラルに排除」する技術](#)）。

「(D) 献金の集金システムを確立する」ことや、「(E) 政治家/行政とのコネを確立する」ことが重要であることは、今回の、元首相暗殺事件によって露呈した、行政府や与党政権との癒着から明らかになりました。

後述しますが、これまで、教団解散命令、または命令発動前に破産した教団は、問題となっている教団と比較すると、いずれも「政治家/行政とのコネ」を軽視していた感があります。**権力との癒着**は、宗教団体を存続させるために、必要不可欠なのです。

あと「(F) 法律に精通する」ことも重要です。今回問題となっている宗教団体は、法律の設立への干渉や、法律施行日前後の献金の運用方法などを、かなり緻密にコントロールしている印象を受けます（消費者契約法第4条3項5号、6号等）。宗教の目的は、新しい価値の創成とその布教にあります。法律違反によって、教団を解散されては元も子もありません。

国家権力や司法との適度のバランス感覚、違法スレスレの教団運営は、教祖にとっては重要なミッションなのです。

信徒を獲得してみよう

とまあ、ここまでは一般論でして、私にとって最も難しそうなことは、信徒の獲得です。

昨今、若者のみならず、全世代共通で、宗教離れが問題になっています。そんな中、私の信者として向いている人は、以下のような要件を満たす方かと思います。

信者獲得方法の検討

ターゲットは絞り込んでおく必要がある



自分に自信があり、やりたいことが明確である人は、ターゲットにならない

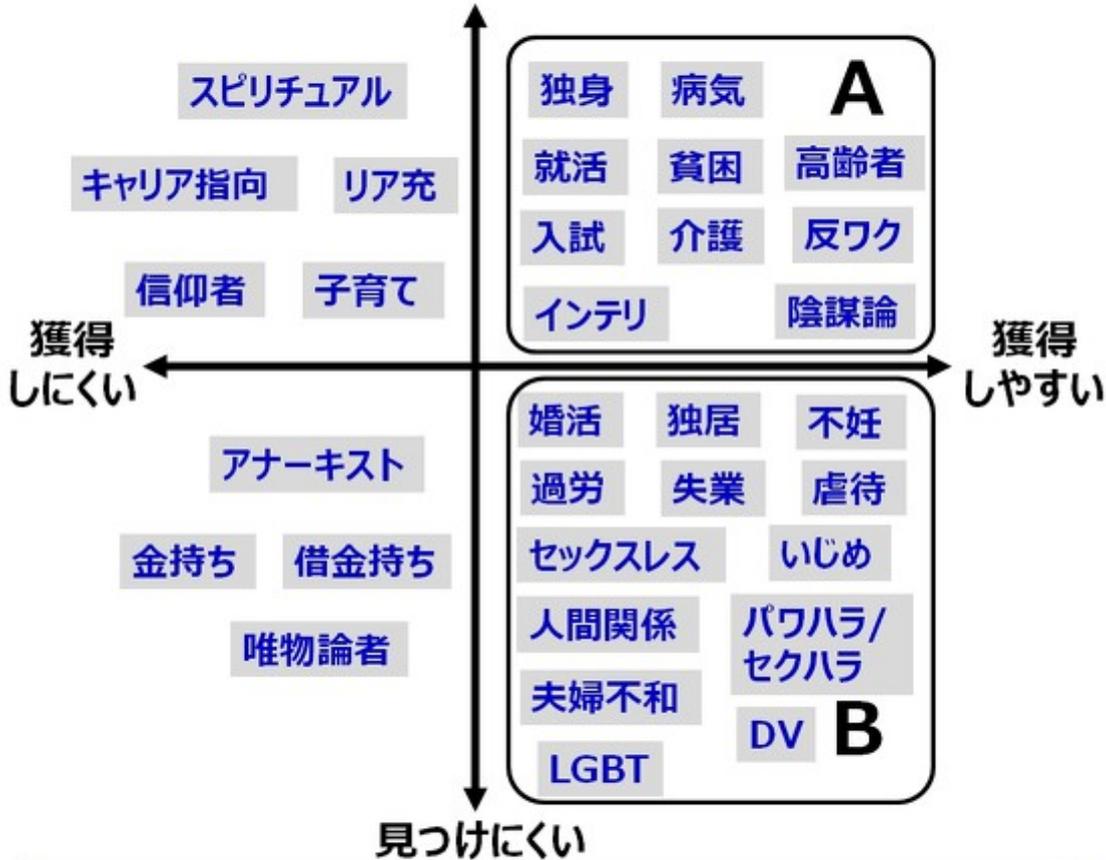
信者として取り込めそうな人間を、スペルアウトしてみました。しかし、このように羅列してみて、ふと気がついたのですが、「金持ち」という要件を除けば、「これは自分（江端）のことか？」と思い当たりました。どうやら、私は、世界中の誰よりも、まず私自身を救済したいみたいです。

ただ、教祖と信徒が一人だけで、しかも同一人物ではお話になりません。そこで、「悩みの内容」や「本人の気質（かたぎ）」をできるだけ具体的に拾って、スコープを広げて考えてみました。

誰を狙うか

ターゲットは絞り込んでおく必要がある

見つけやすい



“A”はSNS等でも接近できるが、
“B”は見つけること自体が難しい

上記の4象限の横軸である、「獲得のしやすさ」から言えば、まず「他人からの意見を全く必要としない人」や、「同情するなら金をくれ」というような、「問題が金銭や時であることが明確である人」は、信者としては獲得しにくいと考えました。

獲得しやすい人とは悩みを持っている人ですが、その中でも「見つけやすい人 (A)」と「見つけにくい人 (B)」がいます。特に“B”は相談しにくい内容の悩みである分、発見が難しく、それゆえ、信者としては好適なターゲットと言えます。

しかし、このような分析をいくらしたところで、信者が獲得できる訳ではありません。そして、この信者獲得は、どの宗教団体においても同じような課題であろうと思いました。そこで、宗教団体が、どのように信者獲得のアプローチを取っているのかを調べてみました。

どうやってアプローチするか

ファーストコンタクトが一番難しい

	仕込み	アプローチ	その他
#1	親戚、近所の人	不幸を嗅ぎつけてやってくる	江端家がやられた例
#2	大学のサークル	ダミーサークルで引き込む。近年はSGDs関連が多い	ラウンジや共有スペースに一人にいるときに声を掛けられる
#3	街中で、「手相を見る」など	中年女性→中年女性はやりやすい	『あなたの幸せを祈らせて下さい』というのもある
#4	戸別訪問	地道に歩いて、家の呼び鈴を押し続ける	切り口は『お時間ありますか』
#5	地域イベント、選挙支援	夏祭り、選挙活動での“タダの”協力	“コネ”を作れるなら、“タダ”でも安い
#6	宗教法人が作ったダミー会社	就職=入団	“正社員”と言うだけで、信徒が獲得できる

**#1～#3まで、全部経験あり。
私(江端)が攻めるなら、#4～#6かな**

ざっくり上記の6つのアプローチがあります。#1は、前回のコラムで紹介しました。#2の大学のサークルは、当時は「げんり（原理研究会）」と呼ばれている奴らでした。#3も、前回ご紹介した『あなたの幸せを祈らせてください』の変形版のようです。いずれにしても、この辺は、今の私には、使えるアプローチではありません。

オーソドックスには、**#4の個別訪問**が固いアプローチだと思いますが、**#5**のように、無償の選挙への労働力の提供という形で、実に与党の国会議員の半数とのコネを確立していた、例の教団のアプローチは「見事」の一言に付きます。ポスター貼りに動員するだけで、政治家とのコネがつかれるなら、こんなに有効な信徒の使い方はありません。**#6**は、“**正社員**”**トラップ**というようなものでしょう。

さて、ここで、上記#3の「手相見」や、#4の「戸別訪問」に、どれほどの効果があるのかを、定量的に見てみたくなって、ざっくりとしたシミュレーションプログラムを作って、動かしてみました（よくやっています（「[「どんなものでも計算します」一ゆるシミュへのお誘い](#)」））。

シミュレーション条件は適当に以下のような設定にして、コーディングしました。

(1) 対象者1000人、勧誘者5人を準備。対象者の最初の信仰力はゼロ、各対象者は、0.0～1.0の間の実数の乱数で決められた勧誘を断わるマインドを持っている。

(2) 勧誘者は、0.0~1.0の間の実数の乱数で決められた、定数の勧誘力を持つ。

(3) 勧誘人は0.1人/日の頻度で、対象者に勧誘を実施するが、対象者の勧誘を断わるマインドが、勧誘者の勧誘力を超える場合は、話を聞いてもらえない。話を聞いてもらえた場合、勧誘者の勧誘力の10%が、対象者の信仰力に加算され、勧誘を断わるマインドから減算される

(4) これを365日間続ける。

(5) 信仰力が20%を越えた対象者をピックアップして（集会場に軟禁して）、0.5人/日の頻度で勧誘を続ける。

(6) これを次の365日間続ける

(コードは、[こちら](#))

シミュレーション結果は、ざっくり[こんな感じ](#)になりました。

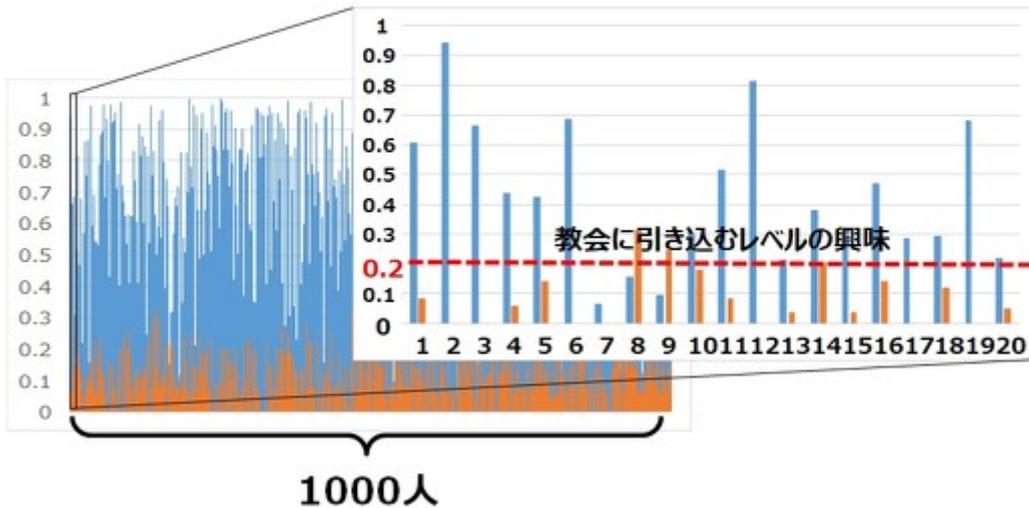
```
type person struct {
    number      int    // 番号
    mental_strength float64 // 勧誘に屈しない強さ
    religious_devotion float64 // 信仰力
    church      int    // 教会フラグ
}

var p_array []*person // personの配列2
var (
    p_num = 0
)

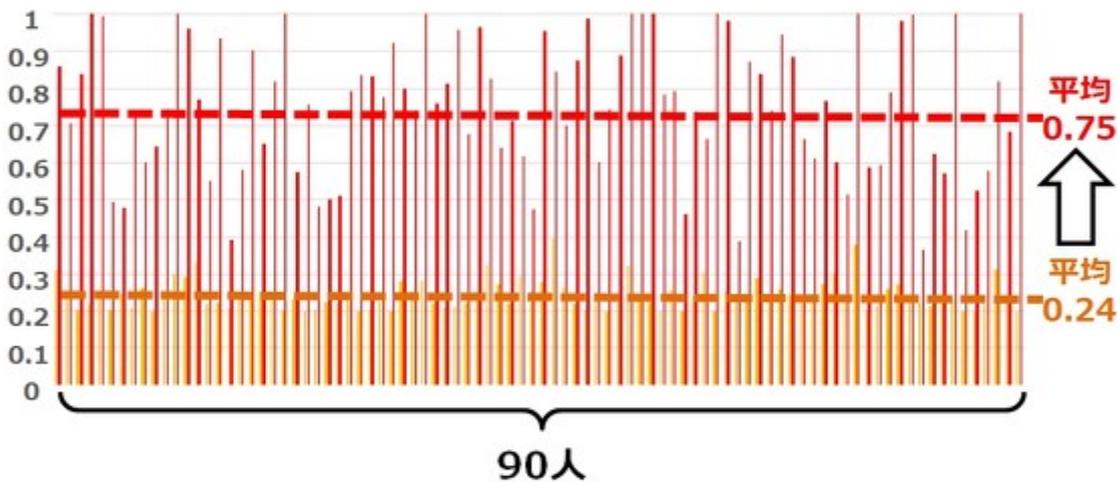
func person_create() *person {
    p := new(person)
    p.number = p_num
    p_num++
    p.mental_strength = rand.Float64() // 勧誘を断わる強さ
    p.religious_devotion = 0          // 信仰力最初は"0"
    p.church = 0                      // 教会フラグ
    p_array = append(p_array, p)     // 配列に格納
    return p
}
```

どの程度、信者を獲得し洗脳できるか？

信者獲得&洗脳シミュレーション



1年間の布教活動で、1000人の信仰力は、
0から0.06まで上昇



信仰力0.2以上になった者を、集会場に軟禁
して5倍の布教により、信仰力0.75までアップ

シミュレーション結果から感じたことは、『地道な布教活動で観察し、ターゲットをピックアップして、集会場で一気に洗脳する』という、カルト教団のメソッドの有効性が、シミュレーションでも、きっちりと現われている、ということです。

カルト教団の被害者（カルト教団から見ると、神に選ばれたエリート）となる私たちの防衛戦略は、（1）布教活動に耳を貸さない、会話をしない、とりあわない、そして、何より（2）教団の施設には、絶対に入らない、入れられない、ということです。なにしろ、信仰力"0"を、"0.75"（最大1.0）まで引き上げることが、計算上可能なのですから。

浄財を頂いてみよう

さて、次は、十分に信仰力を上げた信者から、いくら献金を巻き上げ……、もとい、浄財を頂けるかの検討に入ります。

具体的には、過去に「ヘタを打った教団」の情報から、訴訟に至るギリギリのラインを見極めてみます。

どの程度、献金を得られるか

過去の訴訟事件を見ると、ざっくり平均500万円/人

	宗教法人	アプローチ	データ	一人あたりの被害
#1	法の華	足裏を見て「ガンになる」	人数1200人/請求額96億円(訴訟実績)	平均800万円/人
			人数2万2000人/請求額950億円(警察庁調査)	平均431万円/人
#2	明覚寺(満願寺)	「水子の崇り」「先祖霊の崇り」	合計2150万円の金銭を騙し取る	(判例DBに記載なし)
#3	旧統一教会	(省略)山ほどある	(訴訟だけで)3万人超/1237億円	平均412万円/人

「500万円をベースに訴訟になっている」ということは、高額献金は他に山ほどある、ということ

ここに示す金額は、平均値にすぎず、財産の全部を献金する奇特な信者もいて、さらに、そのような献金をして、訴訟を起こさなかった人もいる、ということ覚えておいてください(後で説明します)。

単純に金額だけで判断できませんが、私が調べた感じでは、「**献金が合計100万円を超えたと感じた時点でアウト**」と、覚えておくと良いかと思います。もし、献金を拒否するのが難しいのであれば、情報公開請求法を使って、教団の収支報告書を取り寄せる旨を申し出れば、多分、教団の献金ハラスメントは止まると思います。もし、「サタン！」などと罵られるのが怖いのであれば、黙って取り寄せて調べれば良いです。

これを、将来教祖となる私の視点から見れば、信仰力0.75を目ざす努力は払いつつ、訴訟に至らない穏当な献金(上限100万円程度)で収める、ということが必要で、狂信的なラディカルな献金希望者は、逆に教団から追放する、くらいの覚悟が必要ということです

献金の違法性の判例

司法は、宗教団体への献金を全否定していない

結果等がいずれも社会通念に照らして相当と認められる場合には、供養の効果（霊験）を説いて供養料を求めるにあたって、能力や供養の効果等に多少の誇張が伴ったとしても、直ちに違法とは言えない。

(富山地方裁判所 平成8年(わ)121号判決)

「だが、以下の場合には別」といっている

	狙い	法律	問題点
#1	はじめから金銭を奪い取る目的での行為	詐欺罪(民法96条第1項)	被害者が「効果を信じている」場合は、詐欺罪が成立しない(第3項)
#2	「不安を煽って、献金で不安が消える」と、脅迫する行為	消費者契約法第4条3項6号	被害者が「脅迫ではないと思っている」場合は、成立しない

宗教団体への献金の違法性は、立件が難しい

教団解体は、1つの民事訴訟がきっかけで始まります。これが集団訴訟になり、検察の目に入ることで刑事事件に発展し、あるいは取引先との関係悪化につながり、信徒の脱会、または解散命令に至る、負のループバックに陥ります。

信徒からの献金は、教団とその教祖となる私にとっては、重要なライフラインです。ここを違法スレスレ運用していくためには、緻密な教団内部のコントロールをし続けなければならぬ、ということです。

「教祖ビジネス」の素案

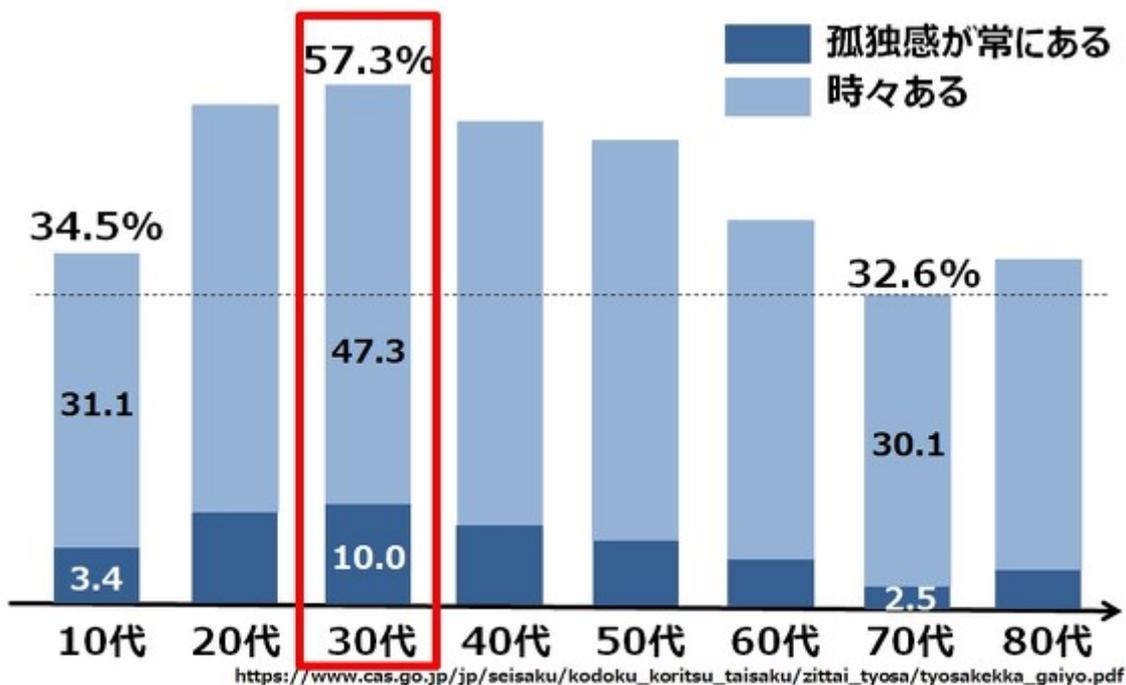
では、最後に、私の考える教祖ビジネスの素案を開示したいと思います。

総括:教祖は“面倒”だが“美味しい”

狙い目は、“孤独・孤立ビジネス”

項目	内容
発生	1980年の新自由主義に端を発て、議論・検討され続けてきた
	2020年に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生と、それに伴う、社会的な接触の厳しく制限
被害	「孤独」で生じる経済的損失は約4.8兆円(裏取り中)
対策	英国 2018年に「孤独担当相」が設立
	日本 2021年12月に内閣官房に「孤独・孤立対策担当室」が設立

ターゲットは、高齢者より、むしろ20～30代



30代を取り込めれば、50年間絞り取れる

今回は、教祖になって宗教団体の運用を、できるだけ具体的なユースケースで検討しました（教義の内容については、完全にスキップしましたが）。

これらの検討の結果、私が狙うターゲットは、“孤立・孤独ビジネス”としました。これらは、現在、個人の問題を越えて、国家の経済モデルにインパクトを与える問題として、今、非常にホットな話題であり、大きなビジネスチャンスと言える状況です。しかも、ターゲット層が、実に優良物件なのです。お金のないシニアではなく、これからお金を稼いでいく30代をメインターゲットとできるのです。

しかも、日本人の平均年齢から鑑みて、脱会を阻止し続けることができれば、**最大50年間の安定した献金**が期待できます。もちろん、信徒を飽きさせない継続的なイベントの提供などは面倒ですが、それでも、期待できる“おいしいビジネス”と言えます。

しかし、課題もあります。布教、勧誘、修行、献金、いずれも、コストがやたらかかることで、教団の管理側の人間を増やすことで対応はできるかもしれませんが、そうすると、HR（ヒューマンリソース）の配分が面倒です。可能であれば、私は教団の運営を、ワンオペ（One Operation）で実施したいくらいなのです。

そういう観点から検討した「ワンオペ布教」の一例を紹介します。

新しい布教の形態

ITをフル活用した、ワンオペ布教

	狙い	方法	メリット/デメリット/その他
#1	布教	■ SNSを通じた、クールな宗教活動のアピール	(1)教会やモスク等のインフラ削減 (2)e-ラーニングによる教義のコスト削減 (3)外部からのファクトチェックを受けない一方的な広報の実現
#2	勧誘 (リクルート)	■「書き込み」をきっかけに、コンタクト開始	(1)関連情報(URL等)の発信 (2)P2Pによる「悩みの相談」等を開始 (3)教団に対する一問一答の丁寧な対応 (4)集会参加への招待
#3	修行	■ デジタル修行(just idea)	(1)ゲーム型修行方法(ステージをクリアすると、修行完了する、等) (2)VR、メタバースを使った、デジタル洗脳(マインドコントロール)技術の活用
#4	献金	■ デジタル献金とデジタル公開	(1)足のつきにくい暗号資産(ビットコイン)による献金 (2)ブロックチェーンによる献金の事実の公開(と、献金競争への巻き込み)

この方式、IS(イスラム国)をはじめとして、既に色々な宗教団体で運用されている

前述の私のシミュレーションでは、1000人中90人の信徒を作り出すのに、2年の歳月と、のべ3650人日（365日 × 2年 × 5人）の勧誘者を動員するコストが必要であるとの結果となりました。比して、SNSを使ったワンオペ勧誘は、コスト面において圧倒的に安いです。

VR、メタバースを使った修行などは、現時点では一笑に付されるのは当然ですが、私は、このような「一笑」が世界を変えていく現実を山ほど体験していきました。いつだって、新しい試みは、このような取り扱いから始まってきたのです。特に、デジタルサービスを使った洗脳技術は、2016年の米国大統領選挙で、実用段階に入っています（例えば、「[マインドハッキング: あなたの感情を支配し行動を操るソーシャルメディア](#)」など）。

暗号資産（仮想通貨）は、教祖側の私から見れば、最高の献金手段です。自力で取引サイトを作れば、権力サイトからの監視の免れる（ただし、法律違反）し、ブロックチェーンで献金帳簿

を公開することで、うまいこと献金競争や、ノルマ競争に巻き込むこともできるかもしれません（でも、ブロックチェーンを使うほどのことはないかな？）。

□

それでは、今回のコラムの内容をまとめてみたいと思います。

【1】今回は、前回の「戦略としての信仰」から、今回は、「お金に愛されないエンジニア」の老後を生き残る「**戦略としての教祖**」を考えてみました。

【2】**宗教団体の教祖になることは、インスタントラーメンを作るより簡単**であるという事実と、宗教団体と宗教法人が混同されている事実に着目して、宗教法人が、「国家の監視下に置かれる代わりに、税制・法律に関する優遇を受ける」制度であること、そして、法人手続きを行う前には3年間の活動実績が必要になるなど、面倒くさいことが山ほどあることを説明しました。

【3】「宗教法人運営のガイドブック - 文化庁」に記載されている、「1.宗教法人の基本理念」の(4)の「**宗教法人性善説**」を踏みにじる、江端の教祖ビジネスの戦略案を展開しました。

【4】教祖の要件、教団の教義の要件、教団運営の要件を、**宗教=ビジネスの観点から**、現在、マスコミで取り沙汰されている教団の運用等も参考にしながら、ドライに検討・分析をしてみました。

【5】その中でも、私が特に難しいと考えている「新しい信徒の獲得」について、ターゲティングを行い、現在、宗教団体が実施している具体的なアプローチの中から、具体的な方法を3つ選出し、その1つについて、コンピュータシミュレーションを実施して、ざっくりした「**信徒の獲得コスト**」の試算を実施しました。また、献金に関しては、合法のラインを死守して、**目立たないように実施することの重要性**を説きました。

【6】最後に「**教祖は“面倒”だが“おいしい”**」という結論と、その理由を述べました。具体的には、**孤独・孤立ビジネス**を行うことで、30代を取り込み50年間の献金を期待できる、という検討結果と、今後は、**教祖によるワンオペ教団運用**が可能となる、という未来予測を行いました。

以上です。

「人生なんて、しょせん『クソったれ』」

私の母は、ことし（2022年）の1月に他界しましたが、その母が、10年前に、施設に1人きりで置いていかれることに涙を流して悲しむ姿を見なければならぬことが続き、正直、私は母のところに行くことが、どんどん憂鬱（ゆううつ）になっていきました。

叫び声を上げる母の声を後ろに去るのは、本当に後ろめたくて苦痛でした。これを誰かに代行してもらえるのであれば、いくらお金を払ってもいい、と思ったほどです。

ある日、私は母に言いました。

『人生って、本当にクソったれだよな。毎日苦しくて、つらくて、未来もなくて、そんな感じだよな。これまで一生懸命に生きてきても、全く報われやしない。でも、安心してくれ。この私

も、いずれ、お袋と同じように、苦痛の日々を経て、最高に惨めったらしく死んでみせるから。それだけは約束する。だから —— 諦めてくれ』

私が、自分の心情を母に吐露した時、母がハッとしたような表情になって、それからの母は、おとなしくなったような気がします。

「人生なんて、しょせん『クソったれ』」という身も蓋もないものでしたが、私の心の底から出てきたその言葉は、ほんのわずかでも、母の心を軽くしたのかもしれない。

今になって思えば、私はこの時、初めて「説法」をしたのだと思います。

□

父も、晩年は自分が何者か分からなくなり、母と同様に苦しみながら、病院のベッドで死を迎えました。愚直ではあったけど、誠実に人生を生き抜き、このひねくれた私（江端）の、全面的な尊敬と信頼を獲得した父の最期が、このような形で終了したことに、私は、今でも激しい怒りを感じています。

人生を一生懸命生きる意義はあるのか？ 自分の人生で守り続けなければならないものがあるのか？ —— 父の死後、私は、出世とか、向上とか、自己啓発とか、その手の考えを全て放棄しました。父の死は、私の「どんな人生も、等しく、クソったれ」を、さらに強化しただけでした。

□

「徳を積むことで神の国に生まれる」だの、「大っ嫌いなやつを好きになれ」だの、「悪人を優先救済しろ」だの、そんな意外性のウケを狙った宗教の教えなんぞ —— もう、いらぬ。

「誰も彼も、最期はクソったれな人生で終わる。その点のみで人は平等だ —— だから、諦めろ」と、そういう話を、私は、みんなに語りたいたいのです。

私の目ざす宗教とは、「しょせん、この世には神も仏も、ありやしない」という、そういう宗教なのです。

「今さら、あなたに教えてもらうまでもない」

後輩：「『宗教による起業』という着眼点はいいと思うのですが、江端さんのビジネス検討の方向性が、もう、どうしようもないほど、うちの会社の連中とそっくりで、ちょっとガッカリという感じでしょうか」

江端：「というと？」

後輩：「サービスデザイン（設計）がなっていない。（1）通り一遍の市場規模調査、（2）自分の頭の中にある都合のよいユーザのペルソナ、（3）時間経過に対するサービス対応の未検討 —— その他、いろいろ挙げればキリがないのですが、『失敗する起業』のサンプルを見せられた気持ちです」

江端：「……」

後輩：「というか、もっと考えることがあるでしょう。例えば、『寺社や教会を、施設や信徒、丸ごとの譲渡』とか、『新興/大手宗教団体とのM&A』とか——江端さんも含めて、どうして弊社のエンジニアたちは、なんでもかんでも“スクラッチ”から作ろうとするのか、理解に苦しみます」

江端：「まあ、これは、一種の思考実験（机上シミュレーション）でもあるし……」

後輩：「それと、これが一番重要なことなのですが、今回の江端さんのコラムからは、『何がなんでも宗教でビジネスを立ち上げるぞ！』という気合、というか、信念が、全く感じられないのです。また、江端さんの宗教ビジネスに、一本筋の通ったポリシーというものも見られません」

江端：「一本筋の通ったポリシーって、どういう？」

後輩：「起業というのは、単なる金もうけの手段ではありません。“**起業**”とは、**まだ“世の中には何か”を、それを“自分”が“最初”に“具現化したい”**という欲望のことです。今回江端さんのコラムには、“それ”が見当たらない。単に金を手にするだけの手段なら、アルバイト情報誌でも買って、電話すればいいだけのことです」

江端：「……」

後輩：「それどころか、宗教全体に関する江端さんの強烈な嫌悪感が、文章の端々に現われています。ぶっちゃけて言えば『**誰か、このコラムを読んで、宗教ビジネスで派手に失敗しやがれ**』というような悪意に満ちあふれていると感じます」

江端：「いやいや、私は、本気で、30代の孤独・孤立を狙ったサービスを考えているぞ、かなり真剣に」

後輩：「では、ここでは、そういうことにしておきましょう。ですが、そうだとすると、江端さんの分析では、ターゲットに対する理解が甘いと言わざるを得ません」

江端：「政府の対応（孤独・孤立対策担当室）や、データからも、“孤独”がビジネスとして成立することは、自明だろう？」

後輩：「江端さん。今の30代や40代が、孤独・孤立化しているのは事実でしょう。そして、結婚が恐ろしく難しい時代であるのも確かです。しかし、彼らは彼らなりの理由でそれを選び、あるいは、彼らの環境が、彼らをそのように選ばせているのです」

江端：「だからこそ、彼らの救済が……」

後輩：「——と、直線的に考えてしまうことが、“甘い”と言っているのです。彼らは、一人で生きていく未来を、それが最善ではないとしても、諦めとともに、理解して、受けいれているのですよ」

江端：「本当？」

後輩：「その世代の絶望的な収入はもちろんですが、その世代の支出も調べてみてください。**彼ら、お金を使っていませんよ**。使っているとしても、非常に少ない範囲で、自分の生活にインパクトを与えない範囲です」

江端：「なんでそうなる？」

後輩：「彼らは分かっているんですよ。結婚せずに、孤独になって、ぎりぎりの生活を生きて、これといったハレのないまま、死に至る未来の自分を——彼らは、彼らなりの、高精度な自分の人生のシミュレーションをしているのです」

江端：「……」

後輩：「私達の30歳代は、まだ、『なんとかなる』という、根拠のない予測の上で生きることが許された時代でした。しかし、今、30歳代の彼らは、既に“予測”ができていて、そして“覚悟”もできているんですよ——『これから先も、なんともならない』し、そして『孤独のまま生きて、死んでいかなければならない』ということを」

江端：「でも、それ、仮説だろう？」

後輩：「もちろん、私が業務で調べたデータに基づく仮説ではありますが——でもね、江端さん。『少子化』って、そういうことの結果なんじゃないですか？」

江端：「……」

後輩：「彼らは、『誰も彼も、最期はクソったれな人生で終わる。その点のみで人は平等だ——だから、諦めろ』なんてフレーズ、『今さら、あんた（江端）に教えてもらうまでもない』と思っていますよ」



Profile

江端智一（えばた ともいち）

日本の大手総合電機メーカーの主任研究員。1991年に入社。「サンマとサバ」を2種類のセンサーだけで判別するという電子レンジの食品自動判別アルゴリズムの発明を皮切りに、エンジン制御からネットワーク監視、無線ネットワーク、屋内GPS、鉄道システムまで幅広い分野の研究開発に携わる。

意外な視点から繰り出される特許発明には定評が高く、特許権に関して強いこだわりを持つ。特に熾烈（しれつ）を極めた海外特許庁との戦いにおいて、審査官を交代させるまで戦い抜いて特許査定を奪取した話は、今なお伝説として「本人」が語り継いでいる。共同研究のために赴任した米国での2年間の生活では、会話の1割の単語だけを拾って残りの9割を推測し、相手の言っている内容を理解しないで会話を強行するという希少な能力を獲得し、凱旋帰国。

私生活においては、辛辣（しんらつ）な切り口で語られるエッセイをWebサイト「[こぼれネット](#)」で発表し続け、カルト的なファンから圧倒的な支持を得ている。また週末には、LANを敷設するために自宅の庭に穴を掘り、侵入検知センサーを設置し、24時間体制

のホームセキュリティシステムを構築することを趣味としている。このシステムは現在も拡張を続けており、その完成形態は「本人」も知らない。

本連載の内容は、個人の意見および見解であり、所属する組織を代表したものではありません。

Copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

